

事業者排出量削減報告書

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	京都府京都市中京区西ノ京桑原町1								
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	株式会社 島津製作所 代表取締役 服部重彦								
事業者の主たる業種	精密機械器具製造業								
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））								
計画期間	平成20年 4月 ～ 平成23年 3月								
基本方針	平成22年度（西暦2010年度）時点の温室効果ガス排出量を平成2年度（1990年度）比10%以上削減する。								
推進体制	エネルギーの管理を担当する生産支援本部企画部および地球環境管理室が温暖化対策を推進する。（実施結果：両部門が協力して対策を実施）								
	環境マネジメントシステム名称	ISO14001							
	適用範囲	本社地区事業所							
	取得年月日	平成9年（1997年）6月24日							
年度ごとの具体的な取組及び措置の状況	年度	設備、対象、工程等	措置内容						
	平成20年度	三条工場、けいはんな	変圧器の更新（2基、24.7tonのCO2削減）、けいはんなクリーンルーム空調方式見直し（119.1tonのCO2削減）						
	平成21年度	三条工場	医川新工場建設（～2009/7）に伴う太陽光発電設置						
	平成22年度	三条工場、紫野工場	医川工場集約化による効率アップ。重油からガスへの切替（紫野）、ガス吸着式のものに電気に切替を検討						
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） (19)年度 (二酸化炭素換算)	目標年度（計画） (22)年度 (二酸化炭素換算)	増減率 (計画)	報告年度（実績） (20)年度 (二酸化炭素換算)	増減率 (実績)			
	A 事業所等排出区分	15,508.0 t	16,531.8 t	6.6 %	16,231.4 t	4.7 %			
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%			
	C その他排出区分	t	t	%	t	%			
	排出合計	*1 15,508.0 t	*2 16,531.8 t	6.6 %	*4 16,231.4 t	4.7 %			
実績に対する自己評価	工場の集約化に伴う製品の内製化施策の一環である新工場稼働などにより、CO2の排出量は増加した。また、平成20年度後半からの景気減退の影響から、設備投資の抑制により延期となっている設備もある。有効な投資を行うべく準備し、景気回復後すぐに必要な施策が打てるようにしておくことで、CO2削減に寄与して行く。								
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）		
	新事業所	二酸化炭素換算 連結売上高（億円）	5.348	5.166	-3.4 %	5.949	11.2 %		
		二酸化炭素換算			%		%		
		二酸化炭素換算			%		%		
実績に対する自己評価	平成20年度後半からの景気減退の影響から、連結売上が減少したことおよび、工場集約化の影響による新工場の稼働に伴いCO2排出量が増加したことが相まって、大幅に原単位が悪化した。今後、目標年度の数字に到達すべく成長戦略の重点化やプロセス改革など全社をあげて取り組む。								
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度（計画）			報告年度（実績）				
		取組量等	（二酸化炭素換算）		取組量等	（二酸化炭素換算）			
	森林の保全及び整備	(整備面積)	ha	(吸収量)	t	(整備面積)	ha	(吸収量)	t
	府内産の木材の利用	(利用量)	m ³	(削減量)	t	(利用量)	m ³	(削減量)	t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	(発電量)	kwh	(削減量)	t	(発電量)	kwh	(削減量)	t
	グリーン電力の購入	(購入量)	kwh	(削減量)	t	(購入量)	kwh	(削減量)	t
	家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入	(購入量)	t	(削減量)	t	(購入量)	t	(削減量)	t
	削減量等合計			*3 t			*5 t		
	差引排出量 (排出合計-削減等合計)	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）			
		1 15,508.0 t	()16,531.8 t	6.6 %	(*)16,231.4 t	4.7 %			
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> 環境貢献製品や環境負荷低減製品の開発 地域における環境保全活動を進めるため、環境出前教育などを実施 ライトダウンキャンペーンなど省エネキャンペーンへの参加 								
特記事項	平成21年度、22年度は三条工場内で大がかりな試験を実施するため、CO2の排出量が一時的に増加します。 (平成21年度：804 CO2ton、平成22年度：540 CO2ton)								

注 1 該当する□には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、○工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。
 5 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度（計画）」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度（実績）」欄には実績の累計を記入してください。
 6 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や、省エネ製品開発など他の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達の実用、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。